

主体的な保育って、0歳児にはあまり関係ないですよ？

子ども主体の保育は、子どもを一人の人として尊重する保育です。だから当然、「関係のない年齢」などありません。0歳の赤ちゃんだって、泣いて自分の空腹や不快感を訴え、自分があそびたいときにあそび、寝たいときに眠る主体なのです。

そこでぜひ一度、私たちは目の前の子どもを「もの」のように扱ってはいないだろうか？と考えてみてほしいのです。「まさか！そんなことするわけがない」と思う人は多いかもしれませんが、では、例えばおむつを替えるとき、食事や授乳のとき、着替えのとき、あるいは散歩や集まりの場に連れていくとき、

「私（保育者）は今こうしようと思っている、あるいはこうしてほしいと思っているけれど、いいかな？」と子どもに聞いているでしょうか。

実際に問いかけてみれば、まだ言葉では返せない子も、目線や表情、体の動きで、一生懸命意思を示そうとしていることがわかんと思います。

忙しい毎日の中で、無駄なく、手早くお世話を済ませたいという気持ちはよくわかります。しかし私たち大人は、他人にいきなり無言で鼻を拭かれたり、行きたくないのにトイレに連れていかれたり、勝手に体を持ち上げられてどこかへ連れ

ていかれたりしません。それはとても暴力的な行為といわざるを得ませんし、もし自分がそんなふうに扱われたとしたら、とても傷つくのではないのでしょうか。

こんなふうに考えると、「まさか」と思っていた自分が、実は子どもを主体ではなく、「もの」として扱い、かわっていたのかもしれない、という振り返りができるのではないかと思います。主体的な保育とは、赤ちゃんもまた一人の人間であり、その人権を尊重しなければならぬということでもあるのです。

3歳以上だ3うが
0・1・2歳だ3うが、
「あなたはどうしたい？」と
いうことを、常に全ての人に
聞くようにして
ください。

